

特 279

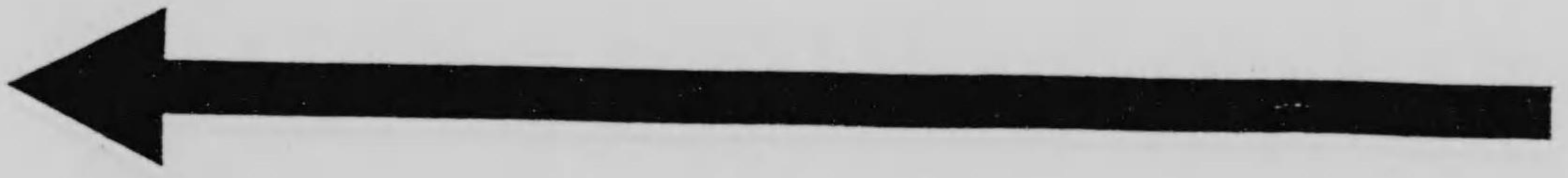
221



Vertical calligraphic text on the envelope flap, likely a recipient's name or address.



始





枚岡の葉

大阪府河内國中河内郡枚岡村大字出雲井に鎮まり坐す枚岡神社は御正殿四前各官幣大社の列に坐し坐せり參詣道の兩側には櫻楓枝を交へて並立し神山には老杉古松繁茂して自然風致を成し南方の神苑には數百株の梅樹を植ゑ連ねたれば此所に登れば心胸爽然たり遙に望めは西南十有一州を雙眸に收むることを得四時の風景絶佳森嚴清淨なる神地にして古來當國一之宮と稱し奉れり

社名の起因

現今の枚岡村及び枚岡南村並ひに英田村の内大字水走なごは何れも神武天皇の御宇の頃の日下江の内なれば今の御鎮座地より南方枚岡南村に到るまで山の尾に沿ひたる十町ばかりの土地は概ね平坦にして小高き岡なりし故に地名となりたるが亦社名に負はせ奉れる者なり

大正 3. 10. 22 内交



神殿の配置

御正殿四前は何れも西面にして南の御殿を第二其次を第一其次を第三最北を第四の御殿と稱し奉れり

枚岡の祭神

- 一 第一の御正殿に 天兒屋根大神 經世治國問學の主神を齋き奉れり
- 一 第二の御正殿に 比賣大神 天兒屋根大神の御后神にましてを齋き奉れり
- 一 第三の御正殿に 齋主大神 亦御名を經津を齋き奉れり
- 一 第四の御正殿に 武甕槌大神 を齋き奉れり
- 一 攝社宮若に 天忍雲根大神 命の御子なりを齋き奉れり
- 一 末社に 天津神 國津神たちを齋き奉れり

鎮座の原由

天兒屋根大神比賣大神二柱は神武天皇御即位前三年戊午年天種子命天忍雲根大神の御子勅を奉して今の御正殿の東方山上神津嶽に御鎮祭し奉ら

れたる本邦唯一の古社なり大正三年まで年を閲すること二千五百七十有七

神階尊號

仁明天皇承和三年(紀元一四九六)五月庚子朔丁未奉授坐河内國河内郡從三位勳三等天兒屋根命正三位從四位下比賣神從四位上同六年(紀元一四九九)冬十月丁丑奉授坐河内國河内郡正三位勳二等天兒屋根命從二位從四位上比賣神正四位下

清和天皇貞觀元年(紀元一五一九)正月二十七日甲申奉授河内國從一位勳二等枚岡天子屋根命正一位正四位上勳六等枚岡比賣神從三位因に云ふ天兒屋根命の御神階は諸社根元記に正一位勳一等と有り比賣神の御神階は貞觀年間以後數度諸社に御神階奉授の由諸書に記せるを見れば比賣神にも亦極階を奉られし事疑ひなし齋主命武甕槌命の御事蹟は香取鹿嶋の兩宮に就きて知るへし



勅使奉幣

勅使を以て幣帛を奉られしこころ古より度々ありたり古書より摘記すれば左の如し

三代實錄貞觀元年九月八日庚申河内國枚岡神等遣使奉幣爲風雨祈焉貞觀七年十二月十七日甲子勅河内國枚岡神四前春冬二祭奉幣永以爲例

日本紀略應和三年癸亥七月十五日祈雨奉幣安和二年己巳七月十八日依祈雨奉幣

本朝世記天慶二年七月八日祈雨奉幣正曆五年四月二十七日祈疫癘勅使奉幣

枚岡社記寛治五年八月十二日堀河天皇御參拜神馬御幣御太刀を奉り賜ふ

功德

謹みて大神等の御功德の萬分の一を摘記し奉らむに第一の御正殿に齋き奉る天兒屋根大神は思慮深遠に坐して敬神尊皇愛國慈民の道を行ひ問學法律議會の基源を開き給ひ殊に神事の宗源を主り大兆の卜事を掌り給ひ祭政一致の政務天業を輔佐し奉りし忠誠無比の大神に坐せば如何なる業にても深遠の思慮を用ゐるへき人は此の大神の御德惠を乞ひ願ぎ申さすば有るへからす此の神に習ひ得し者をこそ成人とは云ふへけれ第二御正殿に齋き奉る比賣神即ち一の御殿の太后と坐す天美豆玉照比賣大神は貞節高操を持ち坐して内助の御功績多くまし坐せり第三第四の御正殿に齋き奉る齋主大神武甕槌大神の勇猛威武の御德を以て葦原の中津國の騷擾を鎮撫し給ひ大國主大神を諭して顯政を皇孫に避り奉らしめ惡魔を驅除平定せしか如きは萬古無比の大功績と申し奉るへし降りて光仁帝の御宇に到りて此の四柱の大神等か一所に鎮り坐す事となりし



は幽おぼき由ある事なりけむ而して今も皇室を冥護し奉り國民を幽助し給へるの故を以て朝廷よりは毎年幣帛供進使を差遣せしめ報本反始の祭典を奉仕せしめ給へは我大日本帝國の臣民たる者は造次も此の大神等の功德を仰き奉りて冥助を祈り奉る可きものなり

崇

敬

永萬元年(紀元一八二五)大相國清盛公神馬御幣を奉る

承安元年(紀元一八三一)僧文覺上人參籠

建久元年(紀元一八五〇)源賴朝御劍及び沙金を奉る

元久年中僧源空上人參詣

曆應元年(紀元一九九八)源尊氏寶物を奉る

正平四年(紀元二〇〇八)正月二日楠正行御太刀物具を奉る

天正十一年(紀元二二四三)關白近衛前久公薩摩國へ下向の時御參詣

神

領

社傳燒失史乘に記する所も亦稀なれども散見せるものを摘録す

新抄格勅符抄 封神大同元年牒 枚岡神六十戸

國花萬葉記 枚岡大明神 社領百石

神社覈錄 枚岡神社四座當代社領五石九斗五升

本朝年代記 枚岡神 社領百石

因に云ふ現今境内地貳萬壹千五拾壹坪にして境外社地五段四畝  
貳拾四歩なり

造

營

神武天皇東征途次戊午年紀元前三年勅を奉して天種子命神津嶽に造營して御鎮祭し奉る

孝徳天皇白雉元年(紀元一三一〇)九月十六日現今の地に宮柱を建立して御遷宮し奉る

因に云ふ官幣大社春日神社官幣中社大原野吉田兩神社の御祭神



中二柱は當社第一第二御殿の御分靈を奉齋したる者なり

光仁天皇寶龜九年(紀元一四三八)十二月九日四所宮柱を太敷立て春日一宮二宮を祝ひ副へ奉らる

後冷泉天皇天喜四年(紀元一七一六)御社焼亡せり

後深草天皇寶治元年(紀元一九〇七)正月五日夜御社焼亡せり

後土御門天皇文明九年(紀元二一三七)七月近郡の氏子奉加を企て御社を造營し奉れり

正親町天皇天正二年(紀元二二三三)九月御本社四前攝末社十七社其他神庫雜庫諸建物一式焼失せり

後陽成天皇慶長十年(紀元二二六五)十一月十日豊臣公當社を御建立せらる奉行は片桐東市正且元なり

中御門天皇正徳二年(紀元二三七二)遷宮あり  
仁孝天皇文政九年(紀元二四八六)四月三日氏子より工費を寄進し御

本殿四前を造營し奉る現今<sup>大正三年</sup>の御本殿是なり  
攝社殿は明治九年改造せり末社殿は弘化元年の造營なり

神寶古文書

- 一 八稜鏡 古銅製 壹 面
- 一 白鹿圖 壹 幅
- 一 短刀 天國作 壹 口
- 一 群猿遊船 桃核製 後藤祐乘彫刻 壹 箇
- 一 後陽成天皇御宸翰御短冊 壹 枚
- 一 關白近衛基熙公御染筆短冊 壹 枚
- 一 當神社古繪圖 壹 幅
- 一 枚岡社記 壹 卷

祭典

祭典は年中祭日記に往古は年中<sup>臨時祭を除き</sup>五十有三回の執行ありし事を



記せるを見れば如何ばかり盛大なりしかを知るに足る明治維新改  
正以後の者を左に記さむ

- 一 歳旦祭 一月 一日 一 御粥神事 一月十五日
- 一 御例祭 二月 一日 一 祈年祭 二月
- 一 平國祭 四月十七日 一 大祓式 六月末日
- 一 秋季郷祭 十月十五日 一 上申祭 十一月上申日
- 一 新嘗祭 十一月 一 月次祭 毎月一日
- 一 大祓式 十二月末日 一 除夜祭 十二月 末日

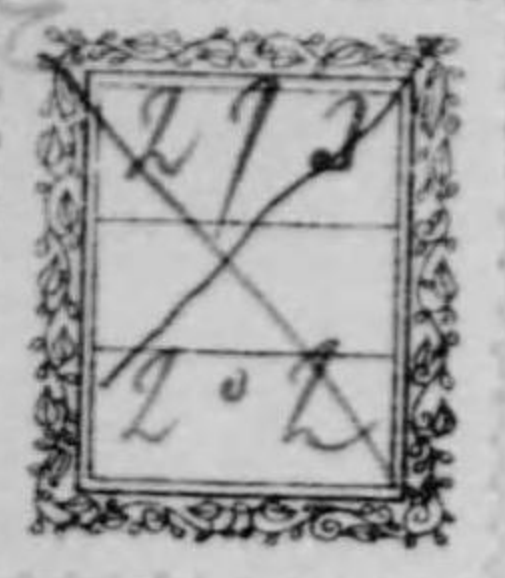
此の外三大節日元始祭日及び遙拜式日は省略す

名所古蹟

- 一 寶基社 たからもちのまつり 神地の總稱なり
- 一 尾花塚 おなはづか 宇多天皇の燈籠を奉られし跡なり
- 一 御祓河 みそぎがは 夏見河とも云ふ 第三鳥居の前にあり

- 一 四位橋 しよんぬか 神殿前の橋の名なり
  - 一 夏越岸 なつこしのきし 御祓河の岸を云ふ
  - 一行合橋 いっけあひのはし 御祓河に架したる橋の名なり 慶長七年十一月豊臣秀頼卿御再興當時木橋なりしを石材に改造せり
  - 一千代の古道 ちよだいのふるみち 拜殿の前より西方參詣道の總稱也
  - 一 照澤池 てるさわのいけ 若宮の南側にあり
  - 一 いぶき 拜殿の東北高地に直立せる大樹の名なり神武天皇の御手植と云ふ
  - 一 神の松 かみのまつ 神殿の東北三町許りの山中にあり大中臣清麻呂公の御手栽と云ふ
- 祭祀用途神職官制等弘仁式延喜式などに詳なれども爰には省略す





大正三年十月十三日印刷  
大正三年十月廿五日發行

定價金五錢

復製  
不許

大阪府中河内郡枚岡村大字出雲井

著作兼  
發行者

官幣大社枚岡神社社務所

大阪府中河内郡枚岡村大字出雲井第六拾六番屋敷

右代表者 武津 八千穂

大阪市西區鞠下通壹丁目貳拾番邸

印刷者 村谷 松治



終

